

平成 23 年度第 7 回

恵那市市民評価委員会議事録（要約版）

日時：平成 23 年 9 月 28 日（水）9 時～

場所：恵那文化センター2F 展示会議室

1. 委員長あいさつ
2. 会議の公開・会議録の公表について（確認）
3. 議事
評価結果の取りまとめ（後半 6 事業）
4. その他

出席者（敬称略）

【委員】市川美彦 大橋由美 柴英子 柘植麻美 平野未帆 牧野香 三輪哲司 山田基

【オブザーバー】竹内泰夫

【欠席者】宮地政臣 田口譲

【事務局】企画部長 小嶋初夫 企画課係長 福平栄久 企画課主査 梶村一之

1. 委員長あいさつ

■委員長 9時の開会は今までないが、忙しい中お集まりいただきありがとうございます。残りの6事業を委員の皆さんとまとめさせていただく。

2. 会議の公開・会議録の公表について（確認）

〔意義なし〕

3. 議事

評価結果の取りまとめ（後半6事業）

○地方バス路線の確保（地域コミュニティバス）事業

■委員 大変効率の悪い事業である。この前状況を見たが一人も乗っていなかった。バス業者にもっと小さなバスでよいのではと聞いたが、古い車を購入して利用しているということであった。業者に運行をお願いしているような状況なので、何か考える必要があると思うが市の考えはいかがか。

■事務局 担当課からよく聞くのは、採算が取れない路線を運行しているので、業者と断ち切れない部分もある。業者との折衝の中で、市単独の事業に移行していけばよいが、県全体の問題でもあるので、難しい問題。最近では恵南地区やスクールバスでは入札で業者を決めている。

■委員 車がない高齢者家庭ではバスを頼りにしているので、断ち切るのはできない。ただ、大型バスで3人の乗車ではもったいないので、なんとか小型化するなどして継続していただきたい。

■委員長 輸送量に対する方法を考える必要がある。自治連合会などの住民組織も明知鉄道の利用も併せて時間に余裕があるときは利用するよう呼びかけていく。

■委員 人家のないところにバス停がある。バス停の見直しをしていないのでは。また、バス停の前の商店でバスの時間を聞いたら、時間も分からず、バスへの関心がないようであった。バス路線の見直しが必要では。改善提案としてオンデマンドバスを提案した。事前に電話などで予約をすると家の前まで迎えに来てもらえるバスである。

■オブザーバー 評価分布が分かれている。Aをつけた方の意見とCをつけた方の意見を聞きたい。また、観光客として明智から串原の温泉に行こうとしたとき、何時のバスに乗ったら、何時の電車があるか全く調べようがなかった。運転手に聞いても分からなかった。その点も考慮したらどうか。

■委員 最終的にAと評価した。それは公共性としては絶対必要と思う。ただ、在り方に問題があると言いたい。路線の見直しは必要だし、運転手の対応など、バスの在り方は考える必要がある。

■委員 Cと評価した。市民意識調査や施策への貢献度から、重要性を感じられなかったもので、C評価とした。

■委員長 都市部のように中心に人口が集中していて放射線状に路線が展開している場合はよいが、恵那市のように人口集積地域がばらばらになっていて、上矢作病院や買い物などのポイントが離れてある場合は難しいと思う。乗ってもらおうという前提に対して、路線と運行の見直し、関係者の積極的な接客態度の改善を加えてよいか。

○恵那ブランド育成事業

■委員 栗と寒天だけなのか。岩村では一部で干しいもをこの時期行なっている。各地域でいろいろあるのでその中から選定するのも1つの手と思う。

■委員長 地域協議会では来月13日地域の中で地域の特産物について意見交換会がある。地域特産というもので、恵那米をブランド化してみても。山間部からの清水で作る米は南魚沼郡の米と似ている。恵那米もかなりの量を生産しているのでブランド化すべき。みのじまつりで笠置町と東野が米を販売していた。

■委員 恵那の特産の栗というが、名古屋に住んでいたときは中津川のイメージがあった。栗を広げていくのなら、都市部にもっと分かるようにしていく必要がある。

■委員 事業者、商工業団体、観光業界が中心となって、育成していくということだが、地域協議会でも話し合うなら、そのことも文言に加えては。

■委員 手土産に名古屋の企業に栗きんとんを持って行くことがあるが、栗だけで作ったものは始めて食べたと喜んでもらった。栗きんとんは他の地域の人からしても、おいしいと思ったが、知らないということに問題を感じた。広報をもっとしてほしい。あと、ヒアリングのときに、市としてどのように関与していくか明確なビジョンが見えなかった。どのような立場で関わっていくかを明確にして、事業に取り組んでほしい。

■委員 市として育成事業としているが、何をやっているか見えない。宣伝以外にはやってないと思うので頑張って進めてほしい。

■委員長 行政が関わりながら育成をするということだが、栗の増産であれば、土地の確保と生産のリーダーを作っていくことが必要ではないか。そのことを付け加えさせていただいてよいか。

■事務局 ブランドの考え方は難しい。地域の特産品開発とブランドが整理されず議論されている。特産品はいろいろあって、他の地域にない珍しいもの。それはブランドではなく、ブランドとはその中でも徹底的に他と差別化してこだわって、あえてPRしなくても口込みで広がり、値段が高くても自然に広がっていくのがブランドの定義。ブランドはたくさんできない。昨年2回ほど研修会を行ったが、まず勉強会から始めないといけない。栗で言えば超特選恵那栗といって、いい栗を栽培し、いい菓子を作っている。寒天は天日干しをして、他地域とは違う製造しているということに価値がある。その2つをやっているということ。他と差別化できて物語になるようなものがあれば、ブランドになると思う。栗はまだまだ地元の栗が足りず、熊本や茨城から持ってきている。ブランド化するに

は地元のものを使う必要があるので、グリーンピア跡地に栗園をつくる準備をしている。担当課だけでなく総合的にブランドを考えていく必要があると思っている。

■委員長 育成する側が長けていなければ育成できないので、行政のスタンスについて強く求めていくということにしたい。

○都市農村交流事業

■委員長 具体化しているのは富田であるが、実際に住んでいる農家でそのような取り組みはあるか。

■事務局 正確には把握していないが、棚田でオーナー制度やらっせいみさとで体験農園ができたり、岩村で稲作体験などの活動があるが、民泊については多くはない。

■委員 棚田オーナーになっているが、名古屋の方に人気があり、奪い合いのようになっている。地域の方に聞くとにぎやかでみなさんによろんでもらっていると聞いた。「茅の宿とみだ」だけでなく農業体験を含めて考えると広がっていくのでは。

■委員長 どの地域の方が農業体験に来るのか。

■事務局 名古屋周辺部が多いと把握している。

■委員長 受け入れ態勢も必要。「茅の宿とみだ」だけでなく、市民にアンケートや、関係者に働きかけるなど、市から市民に受け入れができるか募集する必要があるのでは。民家を含めた受け入れ態勢ができるように、市からの働きかけが必要。そのことも付け加えさせていただく。

■オブザーバー 欠席者のメモに最後の表現を変更したほうがよいとあるが、どうするか。

■委員長 まずは受け入れ体制を作らないといけない。行政側からだけではなく、地域協議会でも議論していきたい。

■オブザーバー 東京の感覚でいうと、スキーにいくと民宿に泊まり、囲炉裏で昔の話を聞くのが人気だった。夏でいえば伊豆の民宿に泊まるのが盛んであった。高度経済成長期で、農村に憧れた時代であった。今は違って農業を体験したい人が都会にたくさんいる。棚田が好きであるが、地域の人々の受け入れ意識がない。ホームステイのようなことが可能になるとよいのでは。

■委員長 行政サイドからの働きかけでは、住民も消極的な態度になる。地域協議会など住民サイドから住民同士の働きかけがあれば、受け入れ態勢も変わってくる。全体的には、地域の中での取り組みが具体化しないと難しい。行政も努力しているが地域の間人間関係の中からもできる。地域協議会でも提案したい。

■委員 串原は、囲炉裏を囲むような場所がたくさんあるのでは。行政から働きかけると住民が消極的になると聞いたが、最初は行政から声をかけないといけない。串原ののんびりした雰囲気は都会の方には良いと思う。

■委員長 地域の方が関わったほうが、具体化するのでは。受け入れ態勢も含めて情報発

信すれば、恵那市は中京圏に近いので、訪れやすい。行政も住民も協働体制で構築している。そして結果を情報発信して都市農村交流事業を進化させる努力をしていただきたい。

■事務局 15年ほど前に都市農村交流事業に関わっていた。長期休暇を農村で過ごすグリーンツーリズムを取り入れ、アグリパーク恵那を中心に行なってきた。行政が担っていた取り組みを、地域にシフトしようとしたができなかった。受け入れ態勢のほうで、地域では活動が重荷になるということであった。数年たって、富田や中野方で行なわれるようになってきた。串原では奥矢作森林塾が炭焼き体験など行なっていて、豊田市の方が多く訪れている。コテージを貸し出して農業体験をしながら生活できる取り組みもある。また、最近では結いの炭家というところで、空き家のリフォームをしたり、民泊したりする取り組みもある。

■委員長 以前農家を中心とした農業体験の取り組みがあったが、受け入れ態勢がうまく取れなかったということであった。行政も住民サイドも協働行動の中で受け入れ態勢の構築をどうしていくか。その上で情報発信していく。

○農作物鳥獣被害対策事業

■委員 総合的にB評価としたが、毎日被害を見ているので絶対に必要な事業。何とか被害を減らすいい方法はないか。広い意味から考えると、今年はドングリが少ないという状況なので、里山を増やしていく取り組みも必要。恵那市も少しずつ進めているということなので、是非続けてほしい。

■委員長 防止柵は電流を流してイノシシを防止する。補助は3軒以上、集団的な申請が必要。個人では負担が大きくなる。受益者が自分たちで自覚しながらやればいいが、なかなか難しい。指導も必要かと思う。イノシシ、熊が出没するのは、実のなる植物がなくなり、針葉樹を植えたことによる人災と言える。出没するエリアにドングリなどを計画的に植樹し、原因を断つ必要がある。森林の育成を行政サイドも、関係者と協議して進める必要があると思う。文言を加えてよいか。

■委員 青い木ばかりになってしまっていて災害も起こっている。山林の保護が必要と思う。

■事務局 今年度から上矢作地区で試験的に自然林の再生事業ということで、ヤマグリを植える取り組みを行なっている。しかし、植えても芽をカモシカなどに食べられてしまうので、そこにも柵が必要となると、なかなか広い面積は行なえないが、少しずつ取り組もうとしている。

■委員長 今年植えて、すぐに自然環境が整うものではない。かなり時間がかかるもの。また、ある地域だけ行うのではなく全体的に行なう必要がある。市の財政上極めて難しいだろう。川上、川下とよく言うが、国の政策として進める必要がある。自治体間同士では、川上・川下の関係の中で協力するよう、提起していく必要もあると思われる。自然環境と防除柵と両方取り組む必要がある。

■委員 評価シートではB評価となったが、本来はA評価と思う。市としても積極的に支援してほしい。

■オブザーバー 被害を受けている委員の気持ちはよくわかる。やりきれない話。事業費は100万円ほど。100万円では問題は解決しないのでは。針葉樹を植えたり、農業の大規模化した国の政策のしわ寄せが弱いところに表れている。国の政策を見直さないと、対症的にいろいろやっても問題は解決しないのでは。

■委員長 恵那市の財政全般からしてみても、100万という金額でどのようなことができるかということだが、努力する姿勢は事業を推進する上で考えてほしい。

○公民館の管理運営

■委員 評価するとき公共性が2倍になっているので、A評価となった。しかし、ヒアリングで事業内容が見えなかった。事業費の説明も後ですと聞いていない。

■委員 有効性、効率性としては公民館運営が十分だと思わない。

■委員 自分は利用しなくても、生涯学習で他の方が利用すると考えるとA評価になった。

■委員 目的と行き着く先が特に分からない。

■委員 A評価としたが、職員がどのくらい関わっているか分からなかった。

■事務局 館長と公民館主事の2人。どちらも嘱託職員。仕事内容は市民団体やまちづくり活動などに部屋を貸すことと、公民館講座、三学のまちづくりとして生涯学習活動の企画と実行をしている。

■オブザーバー コストとしては、1億かかっている。利用者は約22万人ぐらい。市民が利用のたびに寄付してよいと思う額が便益になる。100円とすれば便益比は0.2になる。1にするには500円となる。500円利用者が払えば、市費なしで運営できる。しかし、100円であれば、残りの400円を利用していない人の税金で負担していることになる。

■委員長 住民負担が使用料という形であるが、合併後見直しがされた。

■オブザーバー 使用料は一般財源に入ってしまったて分からない。本当の費用便益は使用料を足して計算する必要がある。

■委員長 各地域で公民館の講座が活発化されている。行政がその場を提供しているということで評価できる。しかし、中公民館は雑居ビル化していて、十分な公民館活動ができていない。他の地域は有意義に使えているのでは。

■事務局 担当課がヒアリングの時、後日報告するといった数字を説明させていただく。維持管理費が平成23年度多くなった理由であるが、光熱水費以外に照明の修繕費がこちらに900万ほど含まれているため。光熱水費としては例年通りとなる。

■委員 管理委託とあるが、公民館は指定管理にしていくはずであったが、そのような段階に入っているか。

■事務局 公民館は生涯学習施設であるとともに、恵那市は13地区で地域自治区を作って

地域づくりをしているので、まちづくり活動を行なう施設。できれば地域協議会で管理を受けていただければ、まちづくりの拠点として一番よいのでは。具体的には山岡のまちづくり事業の中で、公民館を再編しようとしている。そのタイミングで公民館の管理運営をまちづくり山岡にお願いできないか検討している。中野方町も地域活動が盛んなので、将来的に受けてもらえるかもしれない。市としては順番に地域で受けていただきたいという思いがあるが、具体的には決まっていない。

■委員 これほどの費用を使っているが、従来どおり継続でよいのか。

■オブザーバー 便益を上げるには、たくさんの人に利用してもらうか、人件費を下げるか。人件費は下げるのは難しいので、多くの人に利用してもらう工夫が必要では。例えば企業に貸し出すなど。

■委員 一度も公民館を利用しない人もいるのでは。利用者を増やす努力が必要。

■委員長 13地区の地域協議会では、地域づくり交付金事業として5年間で5億5千万取り組んでいる。10年間に変更されたが平成27年で終わる。その後の地域振興基金が約35億積み立てがある。それを果実運用する予定であるが、低金利で難しい。その中で平成27年度までに自主財源を考えながらまちづくりをしていく必要がある。その中で公民館の運営を受けることにより、自主財源を得ながら、幅広い活動を行い、コストを下げしていく。11地域については可能性がある。指定管理もただ任せるのではなく、市が指導を行ないながら進める。展望をもった指定管理を進めコストを下げっていくのか、一方では公民館活動について充実を図り、利用増をどのように図っていくのか補記したらどうか。

■オブザーバー どうしたら利用を増やすことができるのか。企業に使ってもらってもよいのでは。学童保育も公民館でできないか。総務省、文科省、厚労省の枠を取っ払って使えるようにすると、学童保育の問題も解決するのでは。場所があるのにもったいないという素朴な発想。

■事務局 文科省と厚労省で連携して進める放課後子どもプランを作っているので、公民館も学童保育で使うことは可能。

■委員 武並コミュニティには学校帰りに子どもが宿題をしたりして集まる。そこでお菓子など販売したらどうか。

■委員長 地域協議会の中で、弁当・オードブル・お菓子などつくっているハンズ武並という団体があるので、その場で売る可能性もあるかもしれない。地域の人たちが公民館の認識を高めていただかないと、利用が増えない。将来はまちづくりの拠点として指定管理を行い、コストを削減するとともに、中身の充実に基づいて利用促進を図っていくことを提言として加える。

■委員 Aで従来どおり取り組むということであるが、市として何もしないということか。

■事務局 あくまで皆さんの平均点なので、最後提言書としてまとめるときに評価は変え

ていただければよい。

■委員長 評価の中で、地元の管理委託を地域協議会などに管理委託すると具体的にする。今の嘱託職員より地域協議会ではボランティアで行っているの、コストが下がる。

○行政評価制度の構築

■オブザーバー 市民に公表しているウェブページが見にくい。例えば事業名で検索できるとよい。

■委員 12事業はいい事業が選ばれたと思うが、それ以外の事業をチェックする必要がある。しかし、評価委員で全てチェックするのも大変。もう少し市民に伝わる方法が必要では。

■オブザーバー 中津川市では2年間で全事業行なった。委員も20人ぐらいいて、部会に分けて行なっている。会議は150回ぐらいではないか。来年度予算にすぐ反映させるのではなく何年かけて事業の方向性が出せればよいのでは。例えば5年間ぐらいかけて、全事業行なうのもよい。

■委員長 総合計画の長期財政プロジェクトの部会に参加したときウェブページ上の恵那市の財政を家庭の家計簿に見立てて表現することにまとまった。行政視点ではなく市民視点でみて分かりやすいよう、検索について考えるべきだ。

[第8回 平成23年10月18日(火) 午後1時30分～]

[閉 会]